

保健管理センターから見た最近の学生の特徴

保健管理センター 伊東 義一

保健管理センターの日常業務や、アンケートを通して見た、最近の学生の特徴について、述べてみたいと思います。

1. 内科相談から感じられる事

私は内科医ですので、身体面の健康相談を行っています。最近の学生特に新入生で身体的不調を持って、保健管理センターを受診しても、自分の症状がどの様なもので、体のどの部分に起きているか、その症状が何時からどの様にして起きたか、またどう変わったか等を具体的に、要領よく表現出来ず、こちらからこれはどうか、あれはどうかと、いちいち問いたださないと苦痛がイメージ出来ない事が多くなったように思われます。また、症状の表現にドーンとか、ガーンとか擬音の多いのも最近の特徴の様です。

更に、昭和55年頃の新入生男子の身体検査では、体格からおおよそ何学部か分かるような気がしていました。それは工学部、農学部の男子学生が男らしい体格をしているものが多く、文学関係の学生の体格が最も華奢で、医学部・歯学部がその中間に位置し、教育学部男子学生は、農工両学部学生に近い者から文化系の学生に近い者迄と幅広かったと感じており、体格と性格が関係があるように、体格と好みの学問との間に相関があるように感じて居りました。ところが共通1次試験以後は、学部間の体格格差が消失したように感じて居ます。入れる大学に入学したために、自分の好みと異なる学問を選ぶ結果となり、これが不適合学生を生んでいるのではないかと、気になるところです。

また、2年位前より6月頃になると訴えが心身症的で、何となく投げやりな態度を示す1年生が

居り、色々問いただしていくと、突然「もう投げているんです。私は推薦だから付いて行けないんです。」の様な事を言う学生が、少数ですがいることに驚き、精神科の教官に聞くと、精神科にもこの数年同じ様な訴えの学生が増えているそうです。これについては高校側が合格者を多くするための手段として推薦入学を利用するために、推薦入学者が一般入試合格者にコンプレックスを持つのではないかと解釈して下さった職員が居られ、推薦入学者は成績優秀者のみ推薦されると信じていた筆者には大きな驚きでした。

更に、2, 3年前より申込書では学年が3年生ですが、その訴えの内容がちょうど1年生の5月病に似ておる学生が時々見られるようになりました。それらの学生に「1年生のようなことを言うね。」と言いますと、「私は編入学生で、教養と専門の単位で大変なんです。」答えます。環境が変わった上に忙しすぎるのが、編入学生の心身症的訴えの原因のようですが、同じ年齢の学生より幼い感じもあります。これらの学生のサポートをどうするか、検討する必要がありそうです。

2. 入学時アンケートから見た本学の学生の精神的特性

保健管理センターの三浦講師は、内科相談で私を感じていた変化を裏付ける成績を発表していません。それによりますと、最近の本学の学生気質は、11年前の学生に比べると、対人関係からの回避し、自分で納得してしまい、解決できたと決めてかかるような、自己完結的な傾向の学生が増加し、活動性が低下し、意欲のでない傾向が増加しており、精神的な訴えは減少しているが、精神的な要因から身体的症状が起きる心身症的訴えが増加し

ていると、述べています。また、学生の幸福感を親子・家族の良い関係に求めているものが増加しているとも述べています。詳細は保健管理センター紀要第7号を参照して下さい。

3. 国立大学メンタルヘルス研究会で指摘された日本における一般的学生気質としては、①基本的社会教育を受けておらず social skill が拙く、未成熟、②目的意識が希薄で無気力、③自主性に欠け、リーダー性を発揮する学生が少ない、④表面的な人間関係の4点が上げられています。

この様に述べて参りますと、最近の学生はこれまでの学生と全く変わってしまい、エーリアンか何かのようになってしまったとの錯覚に陥ってしまいましたが、今の学生も昔の学生と基本的には変わって居らず、表現や行動がやや変わった程度と見ても良さそうで、卒業の頃になると、所属学部の持つ雰囲気や文化を滲ませてセンターにきますので、私はそれほど心配することも無いのかなとも考えて居ります。